

IBARAKI ドリーム・パス事業について

1 趣旨・目的

変化が激しく将来の予測が困難なこれからの時代において、子どもたちがたくましく社会を生き抜くためには、高い創造意欲を持ち、リスクに対しても積極的に挑戦し、社会をより良く変革しようとする力、アントレプレナーシップ（起業家精神）が求められる。

そのため、高校生等を対象に、自分の夢実現や地域の課題解決に向けた企画立案・実践活動をととして、アントレプレナーシップの育成を図る。

令和元年度に開始し、今年度は過去最高の190件の応募があった。(R1:25件、R2:104件)

2 これまでの活動状況及び実績

- (1) ステップアップチャレンジ講座（オンラインを含め3回実施/19校、生徒76名参加）
 - ・若手起業家等による講演や企画提案書の作成方法等を学ぶ講座を実施
- (2) STEP1「実践活動事前ガイダンス」（令和3年9月19日/16チーム、47名参加）
 - ・活動資金（1チーム当たり10万円）の提供を受け、実践活動スタート
 - ・大学生等コーチや日立製作所の研究員の助言、協力を得ながら課題解決に臨む
- (3) STEP2「企画ブラッシュアップ」（令和3年10月3日/16チーム、42名参加）
 - ・実践活動の進捗状況について発表及び質疑応答
 - ・他チームや大学生等コーチとのディスカッションにより、企画を練り直し
- (4) STEP3「中間報告会」（令和3年11月28日/16チーム、45名参加）
 - ・実践活動の進捗状況について発表及び質疑応答
 - ・最終発表会に向けてプレゼンのポイントを学ぶ

3 プレゼンテーション大会「IBARAKI ドリーム★パス AWARD」

- ・日 時 令和4年1月30日（日）予選/10:00~13:00、決勝/13:30~17:30
- ・会 場 茨城県県南生涯学習センター 多目的ホール
- ・内 容 13:30~ 決勝：開会
13:55~ プレゼン（1チーム：発表7分、質疑応答5分）
15:55~ 審査/ポスターセッション及びマッチング
16:50~ 結果発表、表彰、講評
- ・決勝の発表者 予選を通過した8チーム
- ・審査員 県教育長、県教育委員、企業、大学関係者等
- ・表彰 総合グランプリ及び部門別表彰（副賞として、活動資金を贈呈）
- ・その他 生徒たちが、大会終了後も活動を継続できるよう、支援してくれる企業や市町村行政機関等とのマッチングを目指す。

■令和3年度 IBARAKI ドリーム・パス事業 企画一覧

1 地域課題解決型（8チーム）

No	学校名	学年	企画名	概要
1	土浦第一高等学校 附属中学校	中1	スライムで農業してみませんか！？ #土浦 #SDGs #レンコン	土浦市の農業従事者を応援するために、水分補給率の高いスライムに着目し、農業用の土に改良できないか考えた。製作にあたっては、化学燃料から作られる原料を用いず、土浦市のブランドであるレンコンの端材を原料に用いることで、循環型農業を目指すとともに農業発展に貢献する。
2	太田西山高等学校	3	IBARAKI prime	健康に対する意識の高い人を対象とした、健康ニーズを満たす食材の利用法（健康目的別時短レシピ）や、サービス利用者のレシピの利用状況に連動した食材の提供により、より健康で充実した人生を過ごす時間をサブスクリプションモデルで提供する。
3	水戸第一高等学校	2	慶喜で水戸にさらなる観光資源を！ ～水戸城復活を目指して～	水戸の歴史を若い人に伝えるために、徳川慶喜と正室美賀子のPR動画を作成するとともに、若者受けする名物「水戸チーズ慶喜（ケーキ）」を考案する。さらには、水戸城をプロジェクションマッピングで復活させ、観光客増加につなげる。
4	水戸第三高等学校	2	点と点がつなぐ世界	差別や偏見のない社会にするために、障害の有無に関わらず、あらゆる世代の人たちに楽しむことのできるボードゲーム（人生ゲーム）を制作する。
5	茨城東高等学校	3	茨城町における里山の整備と 間伐材を活用したビジネスプランの提案	茨城町の自然を保護するために、地域に広がる里山整備を実施するとともに、その際に出た「間伐材」を活用し、経済創出に取り組むことで、持続可能な循環型社会を目指す。
6	鉾田第一高等学校	1	HOKOTA STYLE ～空き家×小倉百人一首かるた～	鉾田市の空き家、空き店舗を再利用し、「小倉百人一首競技かるた」で文化の香り漂うまちづくりをするために、多世代交流の場にすることや、ジュニア世代を育成するなどし、鉾田市を「かるたの聖地」を目指す。
7	鹿島高等学校	3	土壌pHがイネの生育速度に与える影響 ～細胞分裂と細胞成長からのアプローチ～	土壌pHが植物の生育に与える影響を調査し、より栄養素を効率的に摂取することができる最適なpH条件を見出すことで、農作物の生産効率を向上させ、ひいては世界中の飢餓で苦しむ人々へ食料を分配することが可能になると考え検証を目指す。
8	水海道第一高等学校	全	ニホンミツバチが住める里山を育てる	森の生態系を維持し、野菜や果物などの農作物の安定した収穫を守るために、ニホンミツバチが訪花する頻度の高い蜜源を増やしたり、羽音解析による行動パターンの解析を行い、受粉昆虫が住める森を維持することを目指す。

2 開発型（8チーム）

No	学校名	学年	企画名	概要
1	勝田高等学校	2	ゴミの山を宝の山に —sweet potatoes will be your knight—	1日30t出るサツマイモの皮（ゴミ）の廃棄に悩む干し芋農家のために、現在コロナ禍で需要が高まっている石けん皮を配合することで、新しい価値を見出すことを目指す。また、商品化することでひたちなか市の魅力を伝えていく。
2	鹿島高等学校	3	外来魚を対象とした効果的な調理法の探索 ～外来魚からスナック菓子を作れるか～	外来魚の被害に遭っている漁師や、在来種を保護するために、霞ヶ浦で捕獲した外来魚でスナック菓子を製作するとともに、特産品として流通させ、茨城をアピールする。また、外来魚の個体数を減少させることで在来種が棲みやすい環境作りも目指す。
3	竹園高等学校	2	電気を通す布やゴムの開発	金属の代替として電気伝導性を有する物質を開発するため、水を溶媒に用いてポリアニリンを合成する際、各種繊維を直接加えることで、導電性のポリアニリン・繊維複合材料の作製を目指す。
4	つくば工科高等学校	3	街中案内及び歩行補助を目的とした 屋外自動走行システムの開発、研究	歩行サポートを必要とする高齢者や障害のある人などが、快適かつ安全な日常生活を送れるように、市街地を安全に自動走行するロボットを作成する。
5	つくば工科高等学校	3	多機能型溶解炉開発	防災用に使用可能な暖房や調理用ヒーターとして活用するために、ポータブルの多機能型溶解炉を開発する。さらに、金属加工等ができるようなイベントを開催し、ものづくりの楽しさを伝えていく。
6	並木中等教育学校	4	古文直訳システムの開発	古文書のくずし字を画像解析し、現代語訳までの工程を一気にこなすことができるシステムを開発する。
7	岩瀬日本大学高等学校	2	表現アプリ（案）	聴覚や発話が困難な人と聴覚障害者等以外の双方の心を結ぶため、手話で伝えたい内容をAR化し、手話3Dモデルを使用することで、スムーズに会話できる環境を整えるアプリを開発する。
8	茗溪学園高等学校	2	地図のオープンデータを活用し リサイクル拠点の情報共有を行い つくば市でのゼロ・ウェイストの推進を図る	つくば市のゼロ・ウェイストを実現するため、市民それぞれの現在位置に近いリサイクル拠点の情報を共有できるウェブ地図を開発し、市民がごみ削減のための新たな生活スタイルを導入することにより、ゼロ・ウェイストに貢献することを目指す。